

令和7年度		学 校 評 価 表		(中間評価 ・ 最終評価)		東広島市立中黒瀬小学校	
別紙様式6 学校教育目標		かしこく やさしく たくましい子供の育成		経営理念		ミッション：確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく、主体的に取り組む児童の育成 ビジョン：「学んでよかった」「来させてよかった」と信頼され期待される学校づくり ○ワクワク感・満足感・達成感が味わえる授業を実践する学校 ○組織として機能する学校 ○お互いの思いを語り合えるコミュニケーション豊かな（働きやすい）学校	

評価計画						自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
確かな学力	1	主体的・対話的で深い学びの実現	学習意欲の向上	・国語科・算数科を中心に、児童が考える楽しさを実感できる授業づくりに取り組む。	・TTタイムの実施回数	35	17回		49%	3	・国語科、算数科、特別支援の授業研究及びTTタイムの実施回数は、17回である。年間の研究計画通り進んでいる。課題としては、TTタイムの質を高めることである。これまでは、教材研究や指導案検討を主として行ってきた。授業力以外にも、学習規律や児童相互の関係づくりなど、学級経営の力量が求められる実態があり、今後は視点を広げ、総合的な教師力向上のための時間とする。簡単なアイデアを紹介したり、テーマを設定したりするなどの工夫が必要である。	B	・教師同士の意見交換の場があるのはよい。 ・先生たちの努力・工夫に頭が下がるが、児童たちの心に届いていないのが残念。どこまでも信じて見守ってほしい。	・TTタイムの運用を柔軟に行い、研修日に設定するだけでなく、ある期間において、テーマを設定し、教師間で交流を行っていくことで、教師力向上につなげる。 ・児童の心に届いていないという指摘を真摯に受け止め、信じて待つ場面と指導すべき場面を明確にもちつつ、指導を進めていく。その実践を上記に挙げたTTタイムで交流し、より児童の心に届く教育へとつなげていく。
			基礎学力の定着	・学力検査の分析に基づき、課題を焦点化して取り組む。 ・学力が十分身についていない児童への支援を充実させる。(放課後ルンルン教室など)	・国語科・算数科の全単元末テストの平均点	80点以上	国 82.2点 算 80.2点		101%	3	・学校全体では、目標を達成しているが、算数の思考力・判断力・表現力の平均80点を超えているクラスは、低学年を中心に3割のクラスにとどまっており、高学年になるにつれて課題が大きい。今後も継続して、授業研究や学力検査の分析に基づき、授業改善や個別の手立ての充実に努め、学力向上を図っていく。	B	・最近、黒板の板書が少なくなり、学力低迷につながっていると聞く。書いて覚える、書いて理解するのは大切である。 ・学力に大きな差がある児童実態を踏まえ、指導を積み上げてくださる教職員の方々に感謝している。	・ICTを活用しつつも、黒板の板書、ノートの活用などは積極的に進めていく。「ICT」は情報整理、「書くこと」で、思考を深めるなどそれぞれのよさを意識して取り組む。 ・つまづきに気付き、教え合いなど個別指導を充実していくことや授業を一部の発言で進めることなく、一人一人の学びを引き出し、教師自ら地域の方へあいさつをしたり、児童を通学路で指導したりする。
豊かな心	2	自他を尊重する豊かな心の育成	規範意識の育成	・児童及び教職員が合言葉や生活上の意識を共有する。(「黒瀬スタンダード」「中小あいさつ」「きこなし」) ・特別活動を活性化させ、児童の行動意欲(自主的・主体的)を高める。 ・講師を招聘し生徒指導に関する職員研修を行う。	・第三者アンケート肯定的評価 ①「本校の児童は地域の方にあいさつをしている」	① 80%以上	100%		125%	4	①「本校の児童は地域の方にあいさつをしている」において、100%の肯定的な回答があった。しかし、すべて「まあまあ」という回答であったので、さらに取組を推進する必要がある。	B	・あいさつに、「ありがとう」を加える児童もいる。「感謝」が大切。 ・地域では、低学年はよくあいさつし、高学年では返事なし。 ・「自分からあいさつできる児童」が少ない。(中学生はよい。) ・集団であいさつの状況が違う(班長がよいと班員もよい)。 ・登下校時と学校内でのあいさつが違う。 ・保護者が側にいるときはあいさつをするが、一人の時はしない実態がある。あいさつをしても、無視をする。朝、下を向いてとぼとぼ歩いて登校している児童が減るとよい。 ・保護者も一緒にあいさつ指導を。	・「地域の方、旗を持って立って下さっている方にあいさつをするように」各担任や全校で指導する。また、児童会に伝え、児童会からも「地域の方にあいさつするよう」全校児童に呼びかける。 ・生徒指導部も自己研鑽活動の一つとして、朝の時間に地域へ出ていき、教師自ら地域の方へあいさつをしたり、児童を通学路で指導したりする。
				・児童生活アンケート肯定的評価80%以上 ②「学校は楽しい」	② 80%以上	91%		114%	4	②「学校は楽しい」において、91%の児童が肯定的な回答であった。9%の児童が否定的な回答であったことを真摯にとらえ、児童の「分かった・できた」を大事にする授業、学級活動、児童会行事、学校行事の充実を中心として取組を進め、「学校が楽しい」と思う児童をさらに増やす。	A	・9.1%の児童にとって友達関係はどうなのだろうか。 ・「勉強は嫌。でも学校は好き」という児童に理由を聞くと、授業が分からんという。学校も勉強も好きになってほしい。 ・「楽しい」は受け身ではなく、(主体性・自主性をもって)前向きに。 ・児童同士でコミュニケーションを取れるような遊びや授業、グループ作業があればよい。 ・「班机で会話をしながら給食」が児童にとって楽しみの一つになる。	・友達関係や家庭での様子等、児童理解に引き続き努め、「いじめの早期発見」や問題行動の未然防止に努める。 ・上記、「確かな学力」の項目に掲げてあることを着実に実行することを通して、「分かった・できた」「学びたい」といった授業づくりに努める。また、左記にある通り、学級活動、児童会行事、学校行事の充実を引き続き進める。	
健やかな体	3	調和のとれた運動能力の育成	自分の体力について、主体的に高めようとする態度の育成	・記録更新の喜びや運動の楽しさを味わわせる体育科授業を実践する。 ・外遊びを積極的に行うことができる環境をつくる。(週1回のロング昼休憩等)	・新体力テスト昨年度を上回る項目	6以上	男子 8 女子 5		133% 83%	3	・第5学年の記録は、男子が8項目中すべての項目で、女子は8項目中、5項目で昨年度の記録を上回った。内訳については、女子の長座体前屈・反復横跳び・50m走が、昨年より低い。今後、全国の体力テストの結果が公表されてからどの項目についての取組が必要かを検討する。	B	・体力の増進は健康の源。	・体力テストの分析を行う。 ・その結果、県平均等より劣る項目があった場合は、分析して改善に取り組んでいく。
				・児童アンケート肯定評価「体育の授業が楽しい」	85%以上	92.10%		108%	3	・90%以上の児童が、「体育の授業は好きだ」と肯定的評価をしている。しかし、7.9%の児童は苦手意識をもっている。体育で楽しみながら行うことのできる授業づくりについて研修を行い、実践する。	A	・苦手でも運動が好きという児童もいる。好きになる工夫が必要。 ・毎朝の運動タイム(かけっこや鬼ごっこ等)、運動と遊びの融合(ゲーム性) ・7.9%の児童の要因は？ ・持久走記録会を自分との勝負(記録の更新)とするのは、苦手意識をもつ児童にとってすばらしいアイデアだ。しかし一方、勝ち負け(順位)にこだわることも大切ではないか。 ・持久走のルール等、視点を変えてみるのも妙案。	・体育の授業を楽しく学ぶために、教材(ティーボール・ラケットなど)を導入し、授業の中で使用していく。 ・チーム戦を組んだ試合などを行い、チームワークや協調性を養いながら、体育が楽しいと思える授業を仕組んでいく。	
信頼される学校	4	学校・地域・保護者が一体となって子供を育てる学校づくり	コミュニティ・スクールの推進	・CS連絡会を実施し、体験活動の綿密な打ち合わせを行う。 ・学校の取組を積極的に情報発信(ホームページ、学校だより、CSだより等)する。	①CS推進員、担当によるCS連絡会の実施	①平均 月2回	① 月2回		100%	3	・春の遠足、5年米作り、4年タグラグビー、3・5年防災教室、5・6年東広島市小学校陸上記録会、中小スポーツフェスティバル、5・6年中黒瀬ふれあい農業祭に関わり、各2～3回のCS連絡会を実施した。地域学校協働活動推進員と管理職や担任、担当等が当日の日程や役割分担、準備物などを打ち合わせ、行事や児童の体験活動が充実した。	A	・地域とのつながり、大人とのつながりは大切である。 ・体験活動の充実が児童の健やかな成長に貢献していると思う。 ・児童期の楽しい体験は、大人になって振り返ってもよい思い出として心に残る。今の子供たちにたくさんの経験をさせてあげたい。継続実施をしていくのがよい。	・恒例の地域学校協働活動について、成果・課題をCS連絡会や企画委員会・学年主任会で話し合い、その後、感謝の会や来年度に生かすために全教職員が共有しておく。
					②学校だより、ホームページ等での発信	② 月1回	② 月1回		100%	3	・「学校だより・CSだより」や「学年通信」、ホームページの「新着情報〇年学習活動」で、学習のねらいや児童の活動の様子、感想などを、保護者や地域に発信した。特に、新たな地域学校協働活動や、近年紹介していない学習活動などを掲載した。本年度は、保護者に学習活動支援のボランティアを募り、安全確保や活動の充実の面で大変有効だった。	A	・内容が充実している。「学校だより・CSだより」は(情報源として)大変助かっている。 ・今後も、終わった行事のみならず、これから行われる事柄を載せるのがよい。 ・保護者も参加したくなるような魅力的な活動とその発信をするのがよい。 ・長期休業中の課題について、事前に全学年の学年通信で知らせてもらいたい。	・各学年通信で行事及び教科等授業の活動での学習支援ボランティアを募り、ねらいや取組を発信したり児童の様子や学習の成果について知らせたりする。 ・長期休業中に地域で学習支援を行ってくださる方には、全学年の宿題一覧表をお渡しする。
		働き方改革の推進	働きやすさと働きがいを実感できる職場づくり	・学年部を有効活用する。(情報共有、交換授業) ・放課後時間の確保をする。(会議の時間短縮、業務改善の推進等)	勤務時間外在校時間が80時間以上の教職員の割合	0%	0%		100%	3	・対象教職員の全員が、月80時間を超えない勤務であった。各教職員の時間外勤務の平均(4～9月)は約22～60時間であった。休憩時間も勤務している教職員が多く、また、「月の時間外勤務の時間は、45時間以内がよい」とされる点から考えると、良好とはいえない。	B	・個々ではなくチームで達成できる工夫が必要である。 ・学校行事において、PTAで計画・実行できる業務を担当し、教員負担を減らす。 ・教職員同士のコミュニケーションの時間を確保する。 ・時間外勤務は、やむを得ない。休日出勤がなくなるように、授業日内で調整してほしい。 ・残った仕事を家庭で行っていることがないことを祈る。教師という仕事は大変だと思う。	・TTタイムや校内研修の設定の仕方を見直し、放課後時間の確保を行う。 ・分掌や担当業務の精選とバランスの見直しを行う。 ・企画委員会及びPTA総務部でPTA活動及び保護者参画活動の内容について協議し、来年度の運営に生かす計画を立てる。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...目標を上回って達成
2...目標をやや下回って達成
3...目標どおりに達成
1...目標をかなり下回って達成



■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
A...とても適切である
B...概ね適切である
C...あまり適切でない
D...全く適切でない